開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3年	2	必修
担当教員			
築 雅之			
B (経営学科)	S (専門科目)	SM (演習)	401 (専門ゼミ・卒業論文等)
授業のねらい (概要)	<p>専門領域における基礎的な研究能力の養成と研究意識の涵養、卒業後も自律・自立して学修できる態度を身に付けることを目的として、専門領域の問題や課題を追求し、発展させていくための研究の原理と方法の基礎を学ぶ。</p> <p>研究の位置づけと意義、研究のプロセス、研究の方法、研究の種類、研究の倫理などについて理解するとともに、情報収集や分析方法、文献検索や文献講読の方法、研究計画の立案と研究計画書の作成、研究論文の書き方や研究発表の仕方について学修する。</p> <p>この担当者の開講科目では主に、経営情報、情報技術、情報システム、情報ネットワーク、情報教育の研究分野を題材として、この分野の実務者、技術者、研究者を想定した基礎的な素養もあわせて育成する。</p>		
授業計画	<p>各自のテーマを構想する時期でもあり、また、研究の基本を知り、研究を行う「基礎体力」を育成する時期でもある。そのため、以下の<1><2><3>を行なう。</p> <p>【遠隔】</p> <p><1>以下を、学生の希望するテーマにあわせて構成し、ワークショップ等の形式で学修する。</p> <p>(1) 研究の意義、方法、倫理 (2) 量的データ、質的データの取り扱い (3) 実験、システム制作・実装を前提とした研究の手法</p> <p>【課題】 (発表3回分程度)</p> <p><2>以下のトレーニングを毎回行う。</p> <p>(1) 担当者による指示あるいはゼミ参加者希望による記事や書籍 (和文による情報技術の応用事例、一般向け書籍、業界誌紙の水準を想定) の要約、発表 (毎回・全員。一人5分程度) (2) (1)の記事・書籍に関連する文献調査 (和文、欧文のコンピュータ関連学会などで公開・発表された論文等を想定) (発表担当者がゼミ生専用サイトあるいはwikiに投稿。ゼミ時間に適宜コメントやディスカッションを行う) (3) 参加者の卒業論文のためのテーマ設定、文献調査 (前期に中間報告会を2回実施) 教員の指導の下、学生の関心や技能に応じて、卒業論文として適切なテーマ設定を行い、文献一覧やサマリーやレビューを継続して更新する。</p> <p><3> <1><2>のまとめとして研究計画書を完成させる</p> <p>予習 (時間) : 毎回の記事要約 教員の指示に従い、テーマ選定、文献調査、サマリー等、発表準備 (180) 復習 (時間) : 要約記事の確認 教員の指示に従い、テーマ再検討、文献一覧等の更新、発表修正 (60)</p>		
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>DP (商学部) の2項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</p> <p>3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力</p> <p>DP (経営学科) の1項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) を多面的に理解し、活用できる能力</p> <p>【身に付くスキル】 生涯学習力・情報活用能力</p>		
到達目標	<p>(1) 研究の意義、方法、倫理について自らのテーマに即して説明できる。 (2) 自らのテーマにそった和文文献調査ができる。 (3) 一般向けの書籍や、比較的平易な論文を要約し、レジュメあるいはスライドを使って発表できる。 (4) 上記の発表に対して、まとまった質疑応答ができる。 (5) テーマに関する先行研究をある程度踏まえた研究計画書を作成することができる。</p>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	<p>授業時間内あるいはMellyでの文書で全体的な解説を行うとともに、必要に応じて個別への指示を行う。特に研究計画書の執筆、レジュメ、スライド作成、口頭発表についてのコメントと個別指導は随時行なう。</p>		
履修上の注意	<p>大学での学びのまとめとして卒業論文に取り組む覚悟と気概をもってほしい。</p> <p>また、研究や論文執筆は、個人のみのできるものではなく、関心を同じくする同僚とのディスカッションやアドバイスをあつて、初めて可能になるものである。自らの研究に加えて、同僚ゼミ生の研究にも関心を持ち、互いにより学びができる環境を作るよう心がけてほしい。そのためにも、無断での欠席は極力避けること。発表者である同僚に「あなたの研究は聞く価値がない」とメッセージを発しているも同然だからである。夏期休暇中に合宿を行う。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>ゼミ活動における発表・相互コメント・課題など65%、最終課題35%。</p>		
教科書	<p>「最新版 大学生のためのレポート・論文術」 (講談社現代新書) ISBN番号: 4065135028 著者名: 小笠原喜康 出版社: 講談社 価格: 800円 (税抜き)</p>		
参考書・教材			
備考	<p>講義科目 (ゼミ形式)</p> <p>2020年度前期は「授業計画」<2>の学生の発表のパートのうち、3回分を課題研究として学修する。どの担当者の回を課題研究として実施するかについては研究分野、学生の適性、技能を踏まえて判断し口頭発表をポスターセッション資料作成などに振り替えるとともに、前後の対面授業の回に、質疑などの機会を設定する。</p>		

	各回全体で330分の学修を想定している
教員との連絡方法	大学ドメインのメール、Mellyでの個別連絡を併用。Line、Gmail等は原則として使用しない。